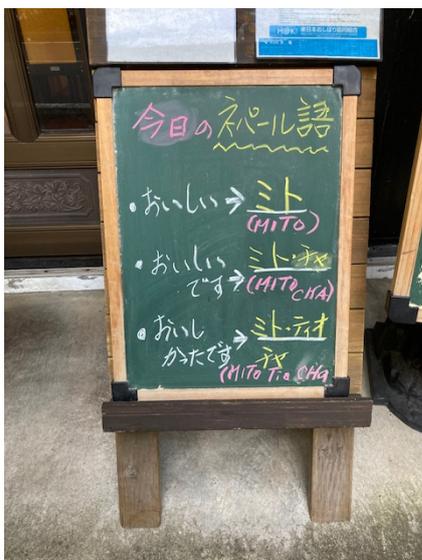


2020/9/18

(うとQ世話し(続々)お客さまのアドバイスから「新しい授業形態」)



「今日から昨日までの日本語の授業は止める。替わって語学の授業をする」

そういつてナマステ別館堂に集まった外国人従業員の前で、黒板に板書してあった

「Japanese language lesson」の「Japanese」を消して「Language lesson」だけにしました。

そしてその下に矢印で引き出して「communication」と書きました。

当然三人とも怪訝な顔つきをしました。

「何のことだかさっぱり分からない」

で、そこから説明を。

「いつも自分が先生だった。いつもみんなが生徒だった。それでいつも自分がみんなにプレッシャーばかり与えていた。それでは面白くないだろう？」

みんな何のことか分からない也にも「なんだ？なんだ？」と身を乗り出してきました。

「だから今日から、時にはみんながネパール語やパキスタン語の先生になってボスの自分に教え、時には自分が反対に日本語を教える。替わり番子にするのや」

で更に

「それを今度はお客様とみんなでもやってもらう。お店で」

更に

「席に案内して日本語で「どうぞ」といった後に「ネパール語ではクリパヤと言います」というのやで。うるさいと思う人もおるが、興味を示す人もおる。興味を持ってもらったらみっけもんや」

この辺からみんな身を乗り出してきました。

「サインボードの店頭黒板には「今日のネパール語」を毎日日替わりで書くんや。何を書くかはみんなで相談しよか」

そのうち笑顔がこぼれてきました。

「アイデア、アイデア、オモシロイ」

という訳で、本日から新しいコミュニケーション授業と実践を開始いたします。

追記)

しかし、よくよく考えてみたら、元々3年前に現在のナマステ別館堂で開講していた「すすき野留学」の「カレーを食べながら英語も学んじゃおう。へたっぴい同士で教えっこし合おう」に、英語をネパール語に差し替えて、周回遅れで戻ってきた(辿り着いた)だけでした。

それに気づくのに、なんと遠回りをしたことか。

我ながらホンマ、情っさけなあ。